

成果発表と審査会を開催

金沢高専は平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に「5年一貫の工学・英語協同学習とFD活動」が選定された。グローバルに活躍するエンジニアの育成を目標とする教育プログラムの開発を進めてきたその成果を報告すると共に、本事業の今後の更なる発展のために外部の人々からの意見を頂くという目的で、11月22日(火)に成果発表及び審査会を開催した。

成果発表・審査会には企業や、函館、秋田、東京、石川、徳山の各高専から専門科目及び英語科教員や卒業生、保護者そして金沢工大の教職員らが多数参加した。

当日の日程は以下の通りであった。

- 9:30～ 歓迎のあいさつ
- 9:40～11:30 授業公開
- 11:30～12:00 コーヒーアワー（意見交換会）
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～14:30 取り組み成果の報告（ポスターセッション）、卒業研究、留学、国際交流、CLE²授業、プロジェクト型学習、海外インターンシップ、CDIO等
- 14:45～16:00 公開審査会

授業公開では日本人教員と外国人教員のチームティーチング、日本人あるいは外国人単独の英語授業などに参加者が集中した。コーヒーアワーには、ほとんどの参加者が集まり、本校教員との歓談を楽しんだ。会場の会議室はドーナツとコーヒーを楽しみながら日本語、英語の



審査会でCLE²の説明をする向井教授

二カ国での会話が弾んだ。昼食後、国際コミュニケーション情報工学科5年の山本達也君と和田憲慈君が海外インターンシップと題して、参加者に対してニュージーランドでのインターンシップ経験のプレゼンテーションを行った。会場から「留学で過したダニーデンと仕事で過したダニーデンのそれぞれの印象はどう違ったか？」や「海外インターンシップの前と後で何か変わったか？」などの質問があった。さわやかな二人のプレゼンテーションに大きな拍手が送られていた。

その後、ポスターセッションが高専一階で行われた。長い廊下をうめつくしたそれぞれのポスターには、高専教員が説明のため待機した。使用言語は日本語と英語の二カ国語である。途中本学学生たちも応援にかけつけ会場は賑わった。説明の各教員たちも各自自信を持つ授業やプロジェクトであり、説明にも力がこもっていた。ポスターセッションの参加者は金沢高専の様々なプログラムを讃えるとともに、いかに各校で実施するかという問題を真剣に考えていたようである。質問は全て「どうやって」に関係するものばかりであった。

賑わったポスターセッション後、高専会議室で公開審査会が行われた。6人の審査員は、

- ・ダイキン工業(株)東京支社シニアスペシャリスト 中浜慶和氏
- ・玉田工業(株)製造部次長 箱田和哉氏、
- ・(株)別川製作所 専務取締役 浅香憲一氏、
- ・石川工業高等専門学校一般教育科(英語)教授 太田伸子氏、
- ・金沢工業大学学園 同窓会こぶし会長 野村外茂雄氏、
- ・金沢工業大学 産学連携室 教授 佐々木達郎氏

であった。山田校長から同取り組みの目的及び概要の説明があり、向井教授は同取り組みの本校に及ぼした効果実例、今後へのつなぎなどについて話した。



海外インターンシップの体験を話す山本君(左)と和田君

各審査員から同取り組みに対する賞賛の声やねぎらいの言葉、そして高い評価がほとんどであった。特に印象に残ったコメントは「このような取り組みを学生のため企画し、実行し、そして効果を高めた学校であることにもっと自信と誇りを持ってほしい。そして更に今後も続けていくことを強く希望する」というものと「これだけの取り組みをもっと社会に、特に企業に発信してほしい。そうすればもっと様々な支援が得られ、また高専という教育システム全体への見方も変わる」というもので、我々一同強くはげまされた。

今回のこの取り組みを通じて、社会では、いかにグローバル化を強く意識しているか、またそれを実現する方策を求めているかを実感した。来年度からもこの取り組みを更に改善、継続し社会にPR活動を行っていききたい。もちろん何といても私たちの学生が一人でも多く、この取り組み、環境を通じて、グローバルイゼーションの大海で活躍できる人材と成長していくことを願っている。



参加者にプロジェクトの説明をする高専の教員

.....